

わがまち西淀川



大阪市西淀川区役所
令和7年(2025年)3月発行

わがまち西淀川の名所・史跡

名所

大野川緑陰道路 N-5

大野川緑陰道路は歩行者・自転車専用道路で、八丁大橋から淀の水橋跡までの約3.8km、幅員は19～47mあります。この道路には、高木約1万本、低木約12万本の100種類にも及ぶ樹木があり、四季折々の景色が楽しめます。散歩道として、健康づくりの場として親しまれ、区民のすばらしい憩いの場となっています。



矢倉緑地 E-12

市内では珍しくコンクリート護岸のない海面と接する公園で、自然石を用いた荒磯・自然海岸や水に触れ合うことのできる潮溜まりがあります。周辺では野鳥の姿が観察でき、冬場には数千羽の渡り鳥(ハマドリ)が羽を休めています。また、矢倉緑地から眺める夕景は、阪神高速道路湾岸線のシルエットを浮かび上げさせ、西淀川区の新しいシンボルとなっています。



大野せせらぎの里(大野下水処理場内) I-9

「安宅池」という大きな池の周りに遊歩道やせせらぎ、あずまやがあり、水生植物や常緑樹、落葉樹が植えられています。安宅池は、水の中の微生物や水生植物など、自然の浄化作用(水をきれいにする力)を利用して、下水処理場できれいにした水をさらにきれいにする施設です。



なにわ自転車道 J-6

東淀川区菅原から淀川右岸(北岸)堤防上を上流へぼり、救光寺付近から神崎川樋門へ、そして神崎川左岸(南岸)河川敷を下流へくだり西淀1区出来島、国道43号までの21.6kmの自転車歩行者専用道路です。



史跡

かしわの橋・野里の渡し(野里1-20) P-6

「尼崎わき道行け渡し三ツ野里、佃に神崎のしも」(摂陽奇観)と唄われ、江戸時代、中国街道の脇道として賑わいをみせた尼崎道。この道は中津川・神崎川・左門殿川を渡り尼崎城下に通じる近道でした。「野里の渡し」は中津川の渡し場で、明治9年この地に「かしわの橋」が架けられるまで賑わいました。淀川の開削により中津川は架けられ「かしわの橋」は、その使命を終えました。「かしわの橋・野里の渡し跡」の石碑は橋の礎石を利用して今も角間にたたずんでいます。

西成大橋親柱の碑(花川2-11-12 興川神社内) P-7

新淀川の開削は、明治42年(1909年)に完成しましたが、そこに架けられたのが西成大橋です。この大橋は現淀川大橋の付近にあり、梅田街道に通じ、梅田方面から西淀川区へ入る玄関口でもありました。

親柱の碑文には、明治41年12月竣工・延長四百里四十分(約7.3km)・橋脚内法(幅員)約5.5m)と記してあります。

一休和尚の足跡(御常島4-14-12 光明寺内) M-4

一休和尚は室町時代の禅僧で、名は宗純、号は狂雲といひ、京に生まれまゐり。文明6年(1474年)に勤命を受けて、一時、奥野の大徳寺の住持となつたことがありますが、その時以外はおおた放浪の生活に明け暮れていたようです。

そんなことから、この地にも軽く足をとめた時期があったらしく、光明寺には今も一休和尚の筆になる自画像の一軸が残っています。

なお、一休さんまつわる寓話や逸話、江戸時代に書かれた「一休はなし」にあるもので、本道の一休和尚といふ人は、世の中の名声や利慾に目くれず、ひたすら善の普及につとめた人だそうです。

天神社跡碑(竹島3-7 竹島公園内) M-1

竹島は古くは竹之町と呼ばれ、天神社は文禄3年(1594年)の勧請と伝えられており、延宝5年(1677年)の加島村役地帳には、25畧(坪)5間四方・天神宮地と記載されています。

竹之町は文化年間に竹島と改称されますが、文政6年(1823年)に社殿を修理し、同年9月3日に石灯籠一対が寄進され地域住民に敬慕されていました。

しかし、明治42年(1909年)に香取志神社(淀川区加島)に合祀されるようになり、神社は移築されました。現在は、香貝波志神社内に竹島神社として、少名彦(すくなひこ)大神・大己貴(おおなむち)大神が祀られています。

大和田城跡(大和田4-3-24 大和田小学校内) K-7

天正8年(1580年)、織田信長が摂津の国を討ち果たしたとき、阿波左衛門をしておの地に城を築かせたことがありまゝ、大和田の地は京都から淀川、神崎川を経て西国に通じる交通の要衝であったことから、戦路上の要城だと思われます。しかし、この城がいつごろまであったかについては明らかではありません。

今では、大和田小学校校庭の正門そばに碑があるのみです。

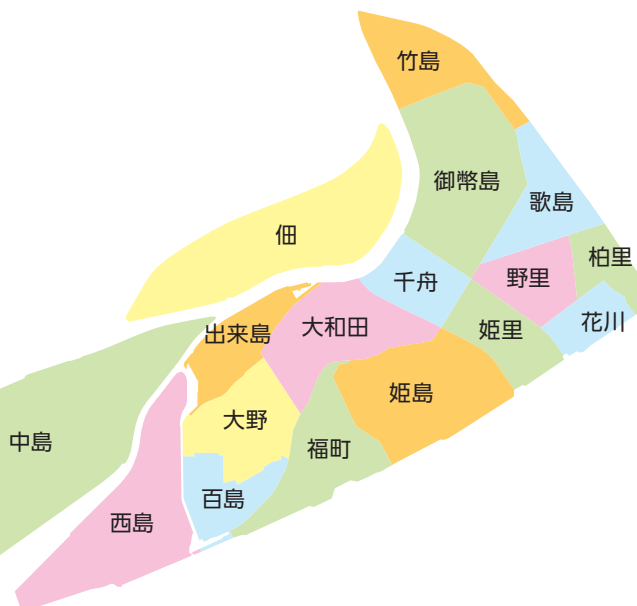
判官松の碑(大和田5-20-20 大和田住吉神社内) K-6

源平の戦いで知られる元暦2年・寿永4年(1185年)の2月、九郎判官源義経が平家追討のため四国に渡るため、大物(元・尼崎)の地名の浦から乗船出したことがありまゝ、ところが折からの突風にほんろうされ、船は大和田の浦にうち寄せられたので、ここで再度乗船をたてなしました。

このときの由縁の松が義経の腰掛松と手櫓の松とも呼ばれて伝えられています。当時の状況からして、前者が正しいのではないと思われます。また、土地の庄屋が義経に樹の皮布巻を献上したところ、たいへん喜ばれたことから、フジタ(樹子)の姓を名乗るようになったとも言われています。なお、大野下水処理場正門前にも、顕彰碑が建立されています。

西淀川区の町名の由来

歌島 (うたじま)	旧村名による。一説によれば「加島(かしわ)」の古称を転じて「歌島(うたじま)」と訓じたという。
大野 (おおの)	播磨樋口村(兵庫県)の樋口伊兵衛が開発した土地で、当時「大いなる野原」であったことに由来する。
大和田 (おおわだ)	「万葉集」に「浜きよくうら横かしみ神代より船に乗る大和田の浦」と当地が詠まれている。「和田」は海の意で「おおわたつみ」に通じ、広い海に面したことに由来する。
柏里 (かしわざと)	神功皇后がこの地を訪れた時、土地の人が餅を柏の葉にのせ、野咲きの花束を添えて歓迎の意を表したのに対し、この地を「興川の里」、渡しを「かしは」と命名したことに由来する。
竹島 (たけじま)	もとの「加島」の字地に「竹町(竹ノ町)」があり、その竹町が中心であった当地を、「竹島」と合成して呼称された。
千舟 (ちぶね)	「万葉集」にある「浜きよく うら横かしみ神代より 千船の泊まる 大和田の浦」からとられた地名である。
佃 (くた)	難波八十島の一つに「田養島」があり、貞観年間(859～876年)に佃村と改め、「田養庄」とも呼ばれたことに由来する。また、慶長年間(1596～1614年)に佃・大和田の漁民が徳川家康に鮮魚を献上して喜ばれ、その恩賞に海上隠密方および鮮魚の役を務めることになったことから「佃」と称されたともいわれる。「佃」の名称は「田養」が田養で漁業も大事だが人はまず田で働いていたのに因むとされる。(大阪春秋第90号より)
出来島 (できじま)	元禄元年(1688年)、摂津茨木に福井村の倉庫修成四郎兵衛が開拓した町人請負新田で、その完成を記念して「出来島新田」と名づけられた。「其能く成功せるに因みて出来島と名くぞ」(西成郡史より)
中島 (なかじま)	元禄年間(1688～1703年)に京都の丁子屋中島市兵衛が開墾したことに「中島新田」と呼ばれたことによる。
西島 (にしじま)	元禄11年(1698年)に九条の池山新兵衛が開墾した新田で、佃・大和田の西に位置する島であることから「西島新田」と命名された。



文化財

池永家住宅(野里1-26-8) O-5

池永家住宅が所有する野里界隈は旧中津川の右岸に接した場所であり、川は大きく蛇行し、たびたび洪水の被害にあった場所だそうである。

明治末期に淀川の改良工事が行われ、守口から大阪湾まではほぼ一直線に現在の淀川が開削されました。もとの川は埋め立てられ、地形が大きく変わりました。

池永家住宅は、主屋、長屋門などが国指定の有形文化財に登録されています。



野里の一夜女祭(野里1-15-12 野里住吉神社内) O-6

その昔、野里村は打ち続く風水害に悩まされていた。昔の人々は自然の災害を神の怒りによるものと考えていて、神の怒りを鎮めるため、人身御供を捧げることがありました。この伝説は、野里神社の神事として伝わっており、7人の女(一夜女)を選び、7つの膳(夏越桶)をかつぎ、親子別れの面を交わした後、神輿に載くというもので、大阪府指定文化財となっています。

由来は悲しい歴史を世に残す物語ですが、今では地域の安全とみんなの幸せを願い、地域で選ばれた乙女たちがきれいな着物を着てまわを練り歩く明るい華やかなお祭りとなっています。



伝記・伝説

柏里と柏の葉

神功皇后(じんぐうこうごう)が朝鮮半島に向かわれるにあたり、この地を通過したとき、里人がつぎたの餅を柏の葉にのせて献上したといわれます。これが柏里の名の起りだと伝えられますが、一説には5世紀前半、仁徳天皇の皇后が熊野詣の帰途、かの地から持ち帰った柏の葉をここで捨てたことに因んだともいわれます。

御常島と神功皇后

むかし神功皇后が住吉神社に奉獻された島の中に常島(へいはくじま)と呼ばれた島があります。これは三韓か柏の葉にのせて献上したとありますが、これが柏里の名の起りだと伝えられますが、一説には5世紀前半、仁徳天皇の皇后が熊野詣の帰途、かの地から持ち帰った柏の葉をここで捨てたことに因んだともいわれます。

野里の島村カニ

野里の開墾は南北朝時代と伝えられています。嘉吉2年(1442年)にこの地の一部が崇禎寺に寄進されましたが、その寄託状には「摂津中嶋野里庄」とあります。この地には「島村蟹」の伝説があります。享禄4年(1531年)島村左馬助がこの地において戦いに敗れ、多くの家臣とも別れたとされています。その時左馬助は敵2人を両脇にかかえて野里川にどびこんで死んだといわれます。その怨念が残って、以来この川には武者の怒ったような顔の甲羅をした蟹が見られるようになり、人々はこの蟹を島村蟹と呼んだと摂津談話に記されています。

大和田の鯉つかみ

佃、大和田、百島、福にかけて鯉漁は古くから「大和田の鯉つかみ」と呼ばれて有名でした。摂津名所図会にも「何となく鯉は浮きけり春の水、という句がなくて、鯉つかみのどなか風景がしのばれます。



西淀川区ってこんなまち!



その昔、大阪は海岸線が東は生駒山麓、西は六甲山麓まで入り込み、現在の西淀川区は海面下にありました。その後、長い年月にわたって淀川などが土砂を運び、河口に「難波(八十島)」と呼ばれたいくつもの島を形づくりました。

西淀川区の地名に、歌島、竹島、出来島、中島、西島、姫島、百島、御常島など、島の名が多いのは、その名残といえます。

1925年(大正14年)4月1日、大阪市第2次市域拡張により、西成郡難洲町・千船町・神島町・伝法町・歌島村・福村・川北村が大阪市に編入され、西淀川区が新設発足しました。

その後、昭和16年に区域変更し、昭和18年4月1日の大阪市の行政区再編成に伴い現在の区域となりました。

歌碑

佃1-18-14 田養神社内 L-4

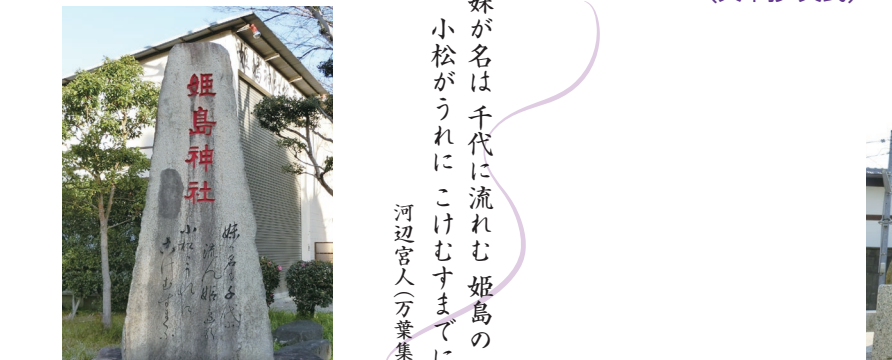
平安時代の歌人・紀貫之の詠んだ歌からすると、佃の地は古くは田養島と呼ばれていたことがわかります。



万葉の歌碑

▶姫島4-14-2 姫嶋神社内 M-7

古代、淀川の河口にできた陸地を「難波(八十島)」と総称していました。その島の一つにヒメジマの名があったことは、この万葉の歌からでも知ることができます。古事記によると、天の日子(ひこ)の妻である阿道留(あかろ)姫が、夫の虐待にたがねて難波の地に逃げてきたことが記されており、それが姫島の発祥とも伝えられています。なお、姫島は比売(ひめ)島、稚(わか)島とも古い文書には書かれています。

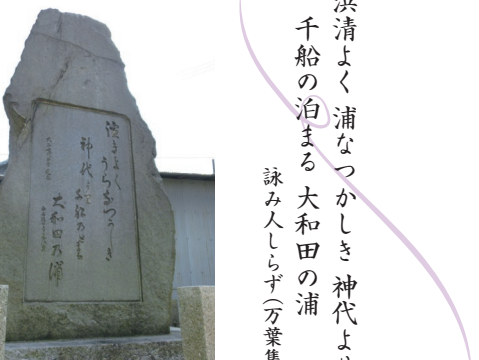


▶大和田5-20-20 大和田住吉神社内 K-6

大和田の地は万葉の時代に、すでに文人の間に知られていたことが、この歌(写真)からも察せられます。この歌は万葉集に収められているものですが、詠人は明らかではありません。

万葉集の中には「摂津中嶋野里庄」とあります。大和田に隣接した千舟の名も、おそらくはこの歌にちなんでつけられたものでしょう。

さらに大和田については、次のような歌も残されています。



区のマスコットキャラクター に〜よん

誕生日▶平成22年9月25日
性 格▶温厚でフレンドリー
マスコットキャラクター「に〜よん」は区の花「さざんか」の妖精です。西淀川区の魅力を広くアピールするため、西淀川区広報大使として各種イベントで活躍中!

区の花 さざんか

西淀川区は緑豊かな美しいまちにしたいとの願いから、昭和50年に区制50周年を記念して、区の花に制定されました。

西淀川区役所

〒555-8501
大阪市西淀川区御常島1-2-10
(JR東西線「御常島」駅 1番出口すぐ)
区役所代表電話番号
TEL 06-6478-9986

